Chapter4

論点

* P48 　Learning outcomes

・中等教育の発展に影響のあるものは何か理解する

…本文から考えてみると、PISAやTIMSSなどの国際的な評価システムがその一つと考えられる。

（例：その結果によって教育政策に変化を加える）

→どのように影響を与えているかPISAに絞って考えてみたい

* PISAの目的とは？

・義務教育終了段階において、生徒が自らがもつ知識や経験をもとに将来の生活について積極的に考え

　られるか、また知識・技能を活用する能力があるかどうかを見ること

・定期的な国際調査をおこなうことで、生徒の学習到達度に関する政策立案に役立つ指標を開発するこ

　と

(参考：<http://www.osaka-c.ed.jp/kak/web/kenkyuu16/a02.html>)

* それでは現在、PISAの結果はどのように使われているか？
1. PISA結果の活用例

♦石原陽子他『日独比較からみた教育政策の特質』

<http://ci.nii.ac.jp/els/110009358162.pdf?id=ART0009891685&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1353727462&cp>=

♦多喜弘文『社会経済的地位と学力の国際比較』

http://ci.nii.ac.jp.kras1.lib.keio.ac.jp:2048/naid/130000669366

※注目してほしい部分：p.230

*「日本では,PISA は国際的なランキング 上での順位をもとに,学力低下の文脈で話題にされることが多い.だが,この調査は生徒の 学力だけではなく,家庭背景にかかわる質問項目などを含んでいる.したがって,このデー タを分析することで,これまで難しかった出身階層と学力との関連の国際比較をおこなうこ とができる.また,各国の教育制度についても,近年 OECD や世界銀行などが,さまざまな データベースを充実させている(National Research Council ed. 2002).これらを用いることで, 今まで日本では「欧米」としてひとくくりにされることが多かった他国の教育制度を細かく 把握することも可能となってきている.もちろん,PISA が対象としている 15 歳の段階での 「学力」が意味するものは,国のコンテクストによって異なりうる.だが,今まではそもそ もこのような国際比較をおこなうこと自体が不可能であった.そのことを考えると,PISA を 用いて,日本の学校体系が不平等を媒介する上でもつ特徴について,他国との比較において 検討する価値は十分あると考えられる.」*

♦志水宏吉他『学力政策の国際比較―公正と卓越性の視点から―』

<http://ci.nii.ac.jp/els/110009358439.pdf?id=ART0009891975&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1353727699&cp>=

※p409からの『３.各国の主要な学力政策とその推移』をみてきてください

②　問題と思われる、PISA結果の受け止め方の傾向

♦朝日新聞　　　　2010年12月20日

「国際学習到達度調査（ＰＩＳＡ）に揺れる各国　シンポで報告」

http://www.asahi.com/edu/tokuho/TKY201012200089.html

⇒記事の内容だけでなく、本文のイングランドの内容も含め、多くの国が、「順位」に影響を受けすぎているのではないか。

本来、①のように使われるべきPISAの結果が、②のような混乱を生み出している。

結果に付けられた「順位」が与えるインパクトが大きいと思われる。

この様になってしまうなら・・・

**論点：**

**PISA結果を、わざわざ「順位」を付けて公表するべきではない。**